

# 生活保護受給者の自殺率

生活保護受給者の自殺率は一般の2倍、20代は6倍  
生活保護バッシングと制度改悪は殺人になる

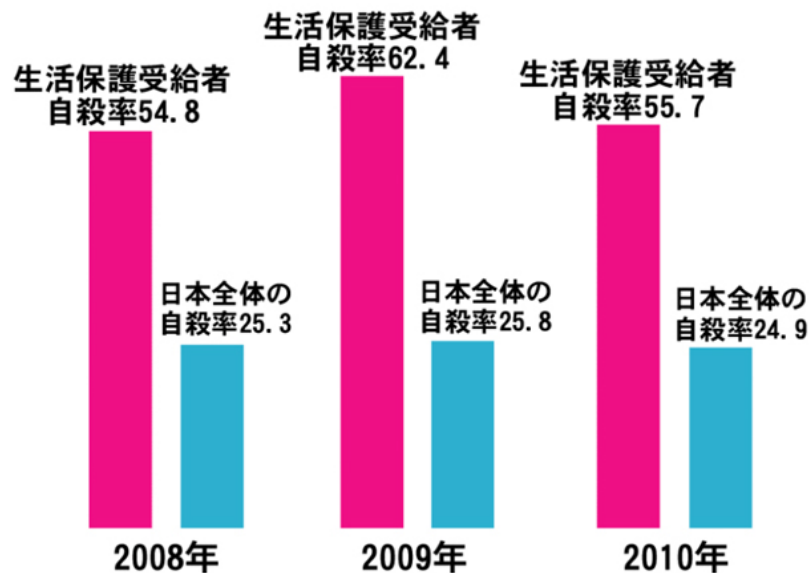
作家の星野智幸さんがブログでこう指摘しています。

売れっ子お笑いタレントの親が生活保護をもらっていたことが詳らかにされ、大バッシングが起こり、厚生労働大臣が生活保護の給付水準を引き下げることを検討し始める、というニュースを、ソウルに住みながらネットで知って、また殺人未遂が起きているのか、と暗澹たる気持ちになった。

バッシングを受けて政治が生活保護水準を下げたりしたら、どのようなことが起こるか。ただでさえ、社会から経済的社会的にこぼれ落ちて、生存の瀬戸際にいる大量の人たちを、死の側へ押しやることになる。背中を押したら死ぬとわかっている人に対し、複数人で背中を押したら、これは殺人になるのではないだろうか。今の社会が行っていることは、そのような行為である。有権者も政治家も、報道も含め。(※[星野智幸さんのブログ](#)からの引用はここまで)

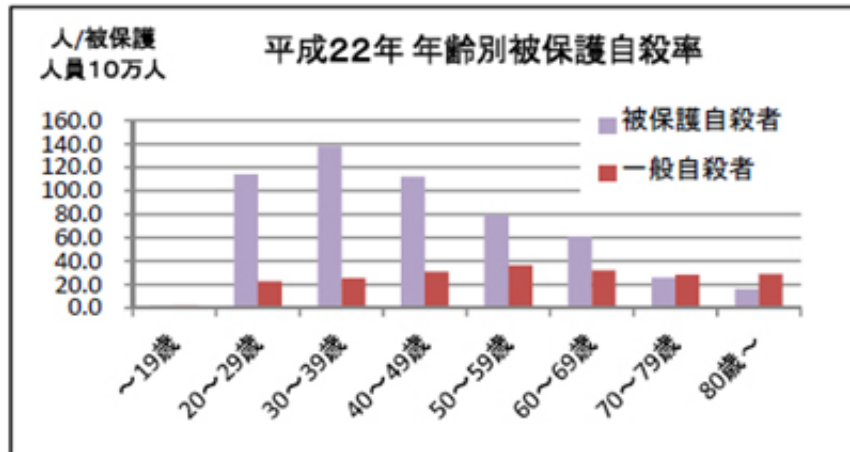
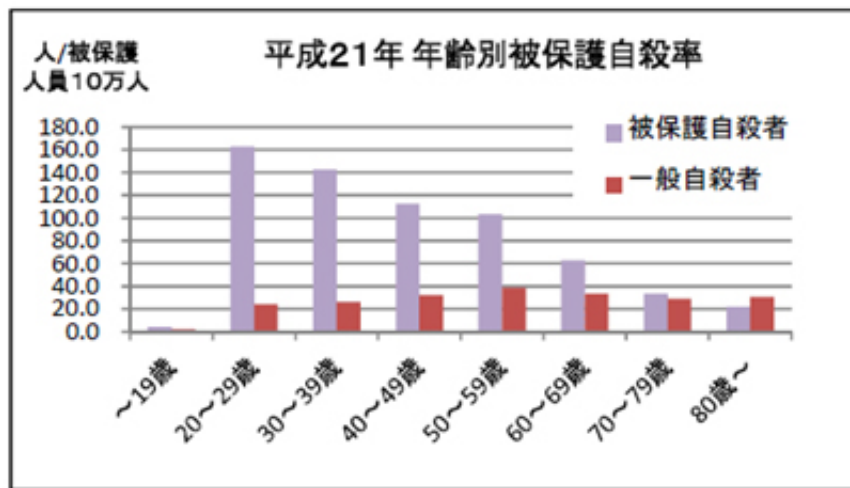
——いまの生活保護バッシングによる制度改悪は「殺人になるのではないだろうか」という星野智幸さんの指摘は大袈裟ではないと思います。

## 生活保護受給者の自殺率は2倍以上



上のグラフは、厚生労働省「生活保護受給者の自殺者数について」(2011年7月12日第4回社会保障審議会生活保護基準部会参考資料)に掲載されている生活保護受給者と日本全体の自殺率を私がグラフにしたものです。

[生活保護受給者の自殺率](#)は、日本全体の自殺率より、2009年で2.4倍、2010年で2.2倍と、2倍以上も高くなっています。



年齢別被保護自殺者数

被保護自殺者		総数	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳
平成20年	人数	843	9	51	124	166	199	187	79	28	-
	構成割合	100.0%	1.1%	6.0%	14.7%	19.7%	23.6%	22.2%	9.4%	3.3%	-
	自殺率	54.8 (73.9)	3.8	139.2	123.5	127.5	87.5	54.6	25.2	18.8	-
平成21年	人数	1,045	11	70	160	172	249	238	110	35	-
	構成割合	100.0%	1.1%	6.7%	15.3%	16.5%	23.8%	22.8%	10.5%	3.3%	-
	自殺率	62.4 (81.4)	4.3	162.5	142.6	112.4	103.1	62.9	33.3	21.9	-
平成22年	人数	1,047	6	61	178	209	211	262	92	28	-
	構成割合	100.0%	0.6%	5.8%	17.0%	20.0%	20.2%	25.0%	8.8%	2.7%	-
	自殺率	55.7 (69.8)	2.1	113.9	138.2	112.2	79.3	60.9	25.9	16.3	-

注1) 自殺率は、被保護人員10万人当たりの自殺者数を示す。被保護人員は、被保護者全国一斉調査(基礎)(平成22年は暫定集計)

注2) 括弧内は全国の年齢階級別人口を基準とする年齢調整自殺率

(参考) 年齢別自殺者数

全自殺者		総数	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～	不詳
平成20年	人数	32,249	611	3,438	4,850	4,970	6,363	5,735	3,697	2,361	224
	構成割合	100.0%	1.9%	10.7%	15.0%	15.4%	19.7%	17.8%	11.5%	7.3%	0.7%
	自殺率	25.3	2.6	23.3	26.1	30.7	36.0	33.7	29.2	31.4	-
平成21年	人数	32,845	565	3,470	4,794	5,261	6,491	5,958	3,671	2,405	230
	構成割合	100.0%	1.7%	10.6%	14.6%	16.0%	19.8%	18.1%	11.2%	7.3%	0.7%
	自殺率	25.8	2.4	24.1	26.2	32.1	38.5	33.5	28.9	30.5	-
平成22年	人数	31,690	552	3,240	4,596	5,165	5,959	5,908	3,673	2,401	196
	構成割合	100.0%	1.7%	10.2%	14.5%	16.3%	18.8%	18.6%	11.6%	7.6%	0.6%
	自殺率	24.9	2.4	22.9	25.6	30.9	36.6	32.4	28.4	29.0	-

資料: 平成22年中における自殺の概要資料(警察庁)

注) 自殺率は、人口10万人当たりの自殺者数を示す。

そして上のグラフと表は同じ厚労省資料に掲載されている年齢別に自殺率を見たものです。

2009年(平成21年)の数字を見ると、20～29歳の被保護自殺者(生活保護受給者の自殺者)の自殺率は、162.5で、一般自殺者の自殺率24.1の6.74倍(2010年は4.97倍、2008年は5.97倍)も高くなっています。19歳以下を除いて、若い年齢ほど自殺率が高くなっています。

こうした数字が示すように、生活保護受給者は現状でも「生きづらい」のです。とりわけ、若年層の「生きづらさ」は異常な実態にあります。

いまの生活保護バッシングは、いま以上の「生きづらさ」を強要することにほかなりません。

「バッシングを受けて政治が生活保護水準を下げたりしたら、どのようなことが起こるか。ただでさえ、社会から経済的社会的にこぼれ落ちて、生存の瀬戸際にいる大量の人たちを、死の側へ押しやることになる。背中を押したら死ぬとわかっている人に対し、複数人で背中を押したら、これは殺人になるのではないだろうか。今の社会が行っていることは、そのような行為である。有権者も政治家も、報道も含め。」という星野智幸さんの言葉を繰り返し噛み締める必要があります。

## 生活保護受給者の自殺者数

	生活保護受給者		(参考)全国	
	自殺者数(人) (生活保護受給者数)	自殺率 (生活保護受給者10万対)	自殺者数(人)	自殺率 (人口10万対)
平成20年	843 (153万7893)	54.8	32,249	25.3
平成21年	1,045 (167万3651)	62.4	32,845	25.8
平成22年	1,047 (187万8725)	55.7	31,690	24.9
平成23年	1,187 (202万3725)	58.7	30,651	24.0

資料:自殺者数(保護課調べ※1)、被保護者全国一斉調査(H23は暫定)

資料:H23年中における自殺の概要資料(警察庁)

※1 生活保護受給者の自殺又は自殺推定される死亡者の状況を自治体から報告いただき、保護課において集計。

この調べは、平成21年から行っているが、平成20年の状況については、職員の記憶やケース台帳を基にして報告したものであるため、平成20年のデータには報告遅れがある可能性がある。

・自殺率(10万人あたり自殺者数) = 自殺者数 / 人口(又は生活保護受給者) × 10万

(厚生労働省提出資料)

平成25年2月7日 衆議院予算委員会 長妻昭 提出資料